

施策評価シート（平成27年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	3-2	政策名	学校教育の充実	政策の 目指す姿	夢と希望を持ち、たくましくい きいきと育っています	施策 主管課	小中学校課	施策主管 課長名	沼田 弘二
	施策No.	1	施策名	学力・体力の向上	施策の 目指す姿	児童生徒の学力・体力が向上 しています	関係課名			
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導等の充実により児童生徒の基礎的な知識・技能の定着度は確実に向上していますが、基礎基本を活用する力の育成が十分とはいえない状況です。 ・日常の運動が習慣化されていないことにより、小学校児童の体力・運動能力が低下傾向にあります。 ・食生活や生活習慣の変化により、肥満傾向の児童生徒の割合が若干増加傾向にあります。 								

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

(1)学力の向上
○学習支援員による少人数指導の充実
・30人を超える学級を有する小学校に授業サポーターを配置(8名)
・30人を超える学級を有する中学校に中学サポーターを配置(3名)
○学力向上のための特色ある実践的な学校の取り組みの推進
・花巻市内小中学校を6ブロックにわけ、計画的に研究校を指定する。研究充実のための費用を支弁。
○研修会等の実施による教員の指導力の向上
・外部講師による模範授業及び講義を実施(小学校1教科、中学校2教科)
(2)健やかな体の育成
○体育指導の充実
○体力向上のための特色ある実践的な学校の取り組みの推進
○小学校体育連盟及び中学校体育連盟事業に対する支援
○児童生徒検診の実施や学校保健活動の充実
○学校給食を通じた食育指導の充実

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
教科学習における基礎基本の定着度(県平均を100とした場合の対比)	岩手県学習定着度状況調査は、児童生徒の実態や指導の状況を評価し分析するツールの一つとして毎年実施しており、児童生徒の学力を測る指標として適当	小4(国、算)、小5(国、算、理)の県平均を合計し、教科数で割った数値を100として本市と比較する。中1(国、数、英)と中2(国、数、英、理、社)も同様に比較する。	%	目標値				小105.0 中100.5	小105.0 中101.0	小105.0 中101.5
				実績値	小102.1 中100.5	小103.3 中101.2	小105.4 中99.3	小104.8 中98.8	小100.9 中98.0	
児童生徒の「体力・運動能力調査」の全国平均を上回る項目割合	体力・運動能力調査は、児童生徒の実態を把握し指導の在り方を検討するため毎年実施しており、児童生徒の体力・運動能力を測る指標として適当	握力、上体起こし、体前屈、反復横跳び、シャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ 小中学校全学年を対象に全国平均を上回る項目の割合を測る	%	目標値				小53.1 中87.5	小59.4 中89.6	小65.6 中91.7
				実績値	小50.0 中87.5	小54.2 中79.2	小46.9 中85.4	小50.0 中64.6	小46.9 中75.0	
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
C	<p>■成果指標「教科学習における基礎基本の定着度」・・・【達成度 小学校b 中学校b】 小学校については、目標値を下回ったが、県平均を上回っている。H21から実施している「はなまき授業サポーター」の成果が継続しているが、児童の実態に合わせた指導がまだ十分ではないことが考えられる。 中学校については、微減ではあるが、3年連続で下降傾向である。H27から実施している中学サポーター配置の成果はまだ表れていない。学力向上アクションプランを意識した組織的な取組がまだ十分でないことが考えられる。</p> <p>■成果指標「体力・運動能力調査」・・・【達成度 小学校c 中学校c】 小学校については、H26より約3ポイント減少した。運動習慣の不足や運動に親しむ児童の二極化が考えられる。 中学校については、H26より約10ポイント増加したが、目標値には達していない。男子ではシャトルランと50M走、女子では50M走が課題である。</p>

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1-1	学力向上推進事業(学力向上支援)	小中学校課	B	B
	外部講師による模範授業・講義を実施(開催数:3回 受講者数:76人)			
1-2	学力向上推進事業(はなまき授業サポーター)	小中学校課	A	A
	30人を超える学級を有する小学校に授業サポーターを、中学校に中学サポーターをそれぞれ配置(少人数指導を受ける学級数48学級)			
2	体力向上実践推進事業	小中学校課	B	B
	基礎体力の向上に対する取り組みを行う実践校を支援(実践校:3校)			
3	まなび交流学習事業	小中学校課	B	B
	小規模校と中規模校間で、音楽、体育、総合的な学習の時間等で行う交流学習を支援			
4	学校保健事業	小中学校課	-	B
	児童生徒及び教職員に対し健康診断、治療指導を実施 (小4生活習慣病予防接種受診者数:741人 異常なし:74.8%) (中1生活習慣病予防検診受診者数:768人 異常なし:79.7%)			
5	小中学校スポーツ振興事業	小中学校課	B	B
	花巻市小・中学校体育連盟の活動を支援(補助金交付件数:4件)			
6	教科用図書採択事業		B	
	教科用図書採択協議会負担金の支出 1回 教科用図書及び指導書の配布 19校			

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)
 ・体力向上実践推進事業の実践校による成果の発表の場を設けることで、取組内容の普及を図る必要がある。

(新たに取り組むべき事業はないか)

6 施策の総合的な評価

(課題)

- ・学力向上に関して、下記(①～④)の課題がある。
 ①小学校での学力維持と中学校での学力向上 ②諸調査における目標設定と教員相互の授業参観 ③子供が主体となる授業の実践
 ④家庭学習のための時間確保
- ・上記において、特に中学校の学力向上が課題である。
- ・小・中学校の体力向上に向けての取り組みが必要である。

(今後の方向性)

- ・平成30年度までに全国学力・学習状況調査及び県学習定着度状況調査において平均正答率に到達することを目指し、下記の取組(①、②)を行う。
 ①各校のアクションプランに基づく組織的な取組を支援するため、指導主事が意図的に訪問指導を行う。
 ②市PTA連合会との連携やHP・広報等を活用し、家庭学習の重要性や部活動の適正化等について家庭や地域に積極的に働きかける。
- ・県事業として行われている各種研修事業への積極的な参加を奨励する。また、体力向上実践事業の実践校を新たに3校選定し、その取り組みを支援するとともに、実践校における成果を発信する。